



薬剤部
かわた さとし
薬剤師 川田 哲史

腫瘍センターにおける薬剤師業務

がん治療の場が入院から外来へ移行する中、腫瘍センターでは入院中と同等の医療の質を提供するために薬剤師を配置しています。点滴で治療を受けられる患者さんのベッドサイドで薬剤師がお話を伺い、治療による副作用や困っていることがないかなど確認をします。そこで得られた情報や検査値などを基に、患者さんの状態や治療効果を客観的に評価して、薬物療法や症状緩和を効果的に行えるように対応策を考えます。それを踏まえて、主治医や腫瘍センターの医師、看護師と協議を行い、患者さんにとって最適な薬物療法を提案しています。提案の内容は抗がん薬の減量や変更等の薬物療法だけではなく、検査の追加や他科への相談、当日の治療の可否など多岐にわたり、患者さんにより良い医療を提供できるように取り組んでいます。

抗がん薬の減量や変更等の薬物療法

当日の治療の可否など

検査の追加や他科への相談



●「薬剤師外来」始めました

これまで、点滴で治療を受けられる患者さんには薬剤師がお話を伺っていましたが、飲み薬の抗がん薬だけで治療をしている患者さんにはお会いできていませんでした。全ての患者さんに安全に抗がん薬治療を受けていただくために、2017年6月に「薬剤師外来」を開設しました。あまり聞きなれない言葉だと思いますが、その名のとおり、薬剤師が外来で患者さんと面談することを目的としています。患者さんが来院され、主治医の診察を待っている間の待ち時間を利用していただきますので、待ち時間が増えることはありません。がんの患者さんは、抗がん薬に対する不安や副作用など様々な症状を抱えているだけに、主治医に限られた診察時間の中ですべての問題点を聞き出し、きめ細かな対応を行うには限界があります。そこで、がん薬物療法に精通した薬剤師があらかじめ面談を行い、副作用の発現状況によっては、支持療法薬(副作用に対する薬)の処方提案や抗がん薬の投与量の軽減や休薬を主治医に相談することもあります。また、主治医の診察時の負担を減らす効果もあります。

主治医の診察の待ち時間を利用



薬剤師外来の面談風景

現在は、飲み薬の抗がん薬治療を行っている患者さんを対象に薬剤師外来を開設していますので、何かお困りのことがある患者さんは、いつでもお声がけください。主治医の先生に「薬剤師外来に行ってみたいです」と、伝えてみてください。



福岡大学病院
いのうえ とおる
病院長 井上 亨

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

福大病院ニュースは平成12年4月より季刊誌として年4回発行し、今回で102号となりました。皆さまからご好評をいただき、今日まで発行できますことに感謝を申し上げます。今後も院内での取り組みや病気、治療に関する事など、さまざまな内容をお届けいたします。

福岡大学病院は「あたたかい医療」という基本理念のもと診療にあたっています。この理念に基づき次のとおり福岡大学病院綱領(平成29年8月制定)を定めました。

基本理念「あたたかい医療」

【福岡大学病院綱領】

1. 患者の権利と尊厳を尊重し、高い倫理観、使命感を備え優しい心を持った医療人による誠実で責任ある医療を提供します。
2. 高度先進医療を提供する大学病院として最新の医療技術を導入し、個々の患者に応じた最善の医療を提供します。
3. 全人的医療を目指して全職種が協働し、患者を中心とした満足度の高い診療に取り組みます。
4. 地域住民との絆、地域医療機関との連携を大切にし、医療・健康に関する情報の発信を通して医療水準の向上に努めます。
5. 臨床研究・高度技術の開発など、大学病院として先端的研究に取り組み、世界の医療や医学の発展に貢献する人材の育成を図ります。

さて、新しい年を迎えるにあたり、福岡大学病院の現状と新たな取り組みについて述べたいと思います。

当院の平成29年度の病床稼働率は4月87.5%でしたが、10月には92.8%となり、平成29年10月末日現在で、年間平均目標値の91.2%を超えています。経営面では、事業活動収支(当期利益)が4月から9月まですべての月において平成28年度を上回っており、4月から9月までの累積収支についても、平成28年度より約4億円改善しています。

病院本館は老朽化が進み、現状において耐震構造に問題を抱えていることは周知の事実です。当院は災害拠点病院ですので安全でより良い医療環境に対応できる病院を目指し、建て替え実現に向けての検討を進めています。また、救急医療に積極的に取り組み、断らない医療の実践のため地域の医療機関との連携強化を図っています。地域医療連携センターによる近隣の医療機関への訪問時には意見交換を行い、忌憚のないご意見をいただけるようになりました。連携医療機関登録制度を設け、本制度に約430の医療機関に登録いただいています。新館1階にかかりつけ医紹介用リーフレットを置いてありますのでご利用ください。

また昨年11月末に乗用車型ドクターカー FMRC(Fast Medical Response Car)を導入しました。救急要請時には、医師や看護師が素早く現場に駆け付け、医師が高度な治療を開始することができます。心肺蘇生が1分遅れると生存率は7~10%低下するといわれており、たとえ命を取り留めても脳にダメージが残る可能性が高くなります。医師が直接現場に駆け付けることでさらなる救命率の向上を目指します。

私たち職員は「あたたかい医療」を実践できるように、笑顔で挨拶を交わし活気ある福岡大学病院を目指します。そして、すべての患者さんの早期治癒を願っています。

本年も宜しく願い申し上げます。



腫瘍センター



腫瘍センター
センター長 高松 泰

腫瘍センターは診療科や職種の枠を超えて構成された組織で、当院でがん治療を円滑かつ効率的に行うことを目的に6部門に分かれて活動しています。がんに関してお困りのことがあれば、いつでも気軽にご相談ください。

* 化学療法部門 * 放射線治療部門 * 緩和医療部門

当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がんに対する治療を専門的に行っています。どのような種類のがんであっても、転移や合併症の有無にかかわらず、小児から成人、高齢者まで全年齢の方に対して、患者さんごとに最適な治療を計画・実施しています。がんの種類や病変の広がりに応じて、内科・小児科医、外科医、放射線科医が協力して薬物療法、手術、放射線治療を単独もしくは組み合わせで行っています。心臓や腎臓、脳神経など体の機能に障害があり通常の治療が難しいと考えられる場合は、専門診療科と協力して個別に治療法を検討しています。がんに伴う症状や治療の副作用など身体的な苦痛を和らげ、精神的、社会・経済的な問題にも配慮するために、医師、看護師、薬剤師に加えて緩和ケアスタッフ、ソーシャルワーカーが治療に参画しています。がんになっても栄養不良にならず体力を維持できるように、栄養士、リハビリ技師が生活をサポートしています。総合大学病院の利点を生かして様々な職種が協力し、がん患者さんが最適な治療を最良の環境で受けることができるよう努めています。

がんに伴う症状や治療の副作用など身体的な苦痛を和らげ、精神的、社会・経済的な問題にも配慮するために、医師、看護師、薬剤師に加えて緩和ケアスタッフ、ソーシャルワーカーが治療に参画しています。がんになっても栄養不良にならず体力を維持できるように、栄養士、リハビリ技師が生活をサポートしています。総合大学病院の利点を生かして様々な職種が協力し、がん患者さんが最適な治療を最良の環境で受けることができるよう努めています。



緩和ケアスタッフ



外来化学療法部門スタッフ

* がん相談・支援部門

がんになると、病気や治療のこと以外に家族や仕事、医療費のことなど様々な不安や悩みが出てきます。がん相談支援センターでは、がん療養相談専任の看護師が医師、ソーシャルワーカーなどと協働してがん患者さんやご家族の話を伺い、一緒に考え、問題を解決するお手伝いをしています。また、がん情報サロンにがんに関する冊子や本を置いています。がんと向き合い闘っていくために必要な知識や技術を提供する目的で、福岡大学病院がんセミナーを定期開催しています。病気や治療、療養生活について知りたい、これからのことが不安、話を聞いてもらいたい、など何かお困りの方は、ぜひご利用ください。他の病院で治療を受けている方でもかまいません。



がん専門相談員

* がん地域医療支援部門

がんに対する治療法は目覚ましく進歩しています。早期に診断されると治癒が期待できますし、進行した状態でも治療を行うことでがんの進行を抑え、がんに伴う症状を軽くすることができます。その結果、がんの治療を終えた後、

もしくは外来通院で治療を行いながら仕事や学業、自宅で生活を続ける患者さんが増えています。このような患者さんに関する情報をかかりつけ医と当院が適切に共有することで、患者さんは安心して毎日の生活を送ることができます。当院では、地域連携クリニカルパスを整備してかかりつけ医との連携を推進しています。

* がん登録部門

がんと診断された患者さんの情報を集計・分析・管理する全国がん登録が2016年に開始されました。がんに対するより良い予防法や治療法を開発するには、どのくらいの人があるような種類のがんに罹患し、その後どうなったかを知る必要があります。当院は、全国がん登録に参加しています。



腫瘍センター看護スタッフ



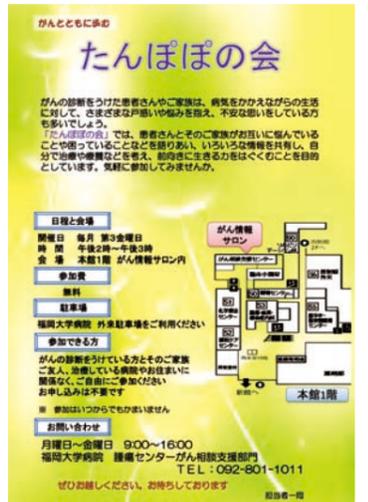
腫瘍センター
部長 原田 英美

腫瘍センターには、がん看護のスペシャリストを配置し、がん患者さんをひとりの生活者として捉え、統合的に支援できる体制を整備しています。

がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん放射線療法看護認定看護師、がん専門相談員、リンパ浮腫療法士がそれぞれの専門性を活かし、多職種と効果的な連携・協働を行い、『安全で質の高いがん医療の提供』を目指しています。

がん患者さん、ご家族は、がんと診断された時から、身体的・精神的・社会的・心理的な「つらさ」に直面されると思います。また、診療経過の中で、治療の選択や療養先の選択など幾度も意思決定をしていく必要があります。私たちは、がんの病期や時期を問わず、「つらさ」に対し、多職種と協働しながら対応し、その人らしさ、希望を大切に継続してケアの提供をしています。

また、腫瘍センターには、がん情報サロンがあり、毎月第3金曜日にがん患者さんやご家族が、悩んでいることや困っていることを語り合い、共に考えることが出来るよう患者会「たんぼぼの会」を開催しています。ボランティアもご利用になる方々への支援を行っています。がんに関心のある一般の方々のご利用も可能です。どうぞお気軽にご利用ください。



たんぼぼの会ポスター

本館1階 腫瘍・血液・感染症内科外来

がん情報サロン

がん相談支援センター

・月～金曜日 8時30分～16時30分

・土曜日 8時30分～12時15分